

# オホーツクの風

令和4年6月29日(水) 0027号

発行所

北見赤十字病院の  
明日を考え支援する会

事務局

北見市緑ヶ丘1-10-16  
Tel 0157-61-0684

## 闘いは続く 治療・看護

### 北見赤十字病院 感染症病床

## コロナ医療

令和2年2月、北見で初めて、新型コロナウイルス感染症を確認。その後、展示会のクラスターに発展し、感染者は22人に達した。北見赤十字病院は直ちに対策本部を立ち上げ、感染者の最初の受け入れが行われ、未知の感染症との闘いが始まった。その体制は今日も続く。

新型コロナウイルス感染症の記事をまとめた、今回、北見赤十字病院の皆さんと懇談した。

病院からは、院長・荒川穰二さん、感染管理室副室長・松澤由香里さん、北7階病棟看護係長・恵美真由美さん、総務課長・鈴木真一さん、そして当会から代表・逢坂信治、副代表・谷川勝男が参加して、5月10日午後3時から応接室で行った。

逢坂：私が進行を担当します、宜しくお願いします。新型コロナウイルス感染症の発生した当時について荒川院長からお話

### 最初の受け入れ

院長：2年前の2月21日、最初の患者さんが入院しました。その方が重症化して、人工呼吸器とかが必要になりました。

当時はICU全部がコロナ患者さんの病床になって、残念ながらそれ以外の重症患者さんを受け入れることが出来なかった。

そのため、コロナ以外の重症患者さんを旭川の病院へ搬送するなど、なかなか苦勞した時期がありました。

### 体制のあらまし

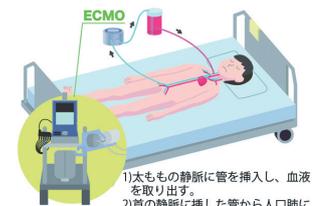
逢坂：最初の受け入れから大分時間が経っています。新型コロナウイルスへの感染管理体制も進化していると考えま

す。現状をお話し願います。

院長：ICUをコロナ専用で治療を行っていました。一部を陰圧空間にする改造工事を一昨年の11月に行いまし



この患者の呼吸器を自動的に動かすため、人工呼吸器のセンサーが、患者の呼吸に合わせて自動的に調整を行います。画像の出所：日本集中治療医学会 HP



ECMO(エクモ) 重症呼吸不全、または重症心不全の患者に使用される、生命維持のための装置です。ポンプにより血液を取り出して、肺の代わりに酸素と二酸化炭素の交換をおこない、血液を体に戻すことで呼吸の補助をします。画像の出所：shutterstockの画像を編集

1)太ももの静脈に管を挿入し、血液を取り出す。  
2)首の静脈に挿入した管から人口肺によって酸素化された血液を送る。



陰圧病床



た。

陰圧室は気圧が低いのでこの空間からコロナウイルスが他の空間に拡散することとはなく、人工呼吸器やエクモでの治療が充分に出来るようになりました。

オホーツク圏では今の処、新型コロナウイルス感染症の重症者を受け入れが出来るのは当院だけと考えています。

### 闘いは困難の連続

逢坂：相当重症な方も受け入れてご苦勞なさったと思うんですけれど、その辺のことを差支えがな

い範囲でお聞かせ下さい。

院長：そういう意味で大変だったのは、北海道で初めて、新型コロナウイルスクラスターが確認された、総合卸センタークラスターです。

最初の発生から3月上旬までに十数名の新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れました。

あの時、当院で受け入れた方もいましたが、網走厚生病院や遠軽厚生病院にお願いした患者さんもありますし、後に重症化が考えられる患者(2面につづく)